

平成8年度 和歌山県名匠

【人形づくり】 玉置フミ

【現住所】和歌山市
【生年】大正9年

業績及び経歴

大正9年大阪市で生まれる。幼少の頃から人形に興味を持ち、趣味として人形を作っていたが、昭和40年の伝統工芸展の鑑賞を契機に本格的に人形づくりに取り組むことを決意。

京都在住の平中歳子氏に20年間師事するなど、30余年にわたり今日まで技能の研鑽に励み、人形づくりに惜しまぬ努力を注いでいる。

その間、氏の手によって命を得た作品は、京展のあかね賞の受賞や伝統工芸展に入選するなど数々の賞を受賞することとなる。

強靱なこうぞの繊維の可塑物により形づくりを行う氏は、木芯桐塑、桐塑、張り子、張り子切目込みなど様々な技法を駆使し、デッサンから塗りまですべて手作業で制作を行っている。

一体の人形を制作するのに3ヵ月以上を要し、また梅雨時には、作業が制限されることもあり、年間の制作量は3体程度である。

「人形づくりは対象作品の気持ちを理解し、まじめで優しい気持ちで取り組むことが大切」と語る氏の作品には、その温和な性格がそのまま表現されている。

時代の流れにいつしか失われかけた和人形の本当の美しさを、自らの地道な研鑽により現在に表現している氏の功績は、大きいものがある。